

アオコ発生・継続に関与する環境因子の解明に関する調査について

## 1. 目的

宍道湖ではここ3年間、連続してアオコの大量発生が観測されている。そこで今回アオコが発生する前から発生後まで詳細な調査を行い、水況変化を追跡し、アオコ発生のプロセス解明に資する。

また、沿岸部で大量に発生が見られる傾向があり、風による吹き寄せが原因であると思われるが、推測でしかなく、実際に沿岸部における化学的な水質検査を行う必要がある。このことから、沿岸域も含めた調査とし、風向・風速などを考慮しながら、なぜ沿岸域で大量のアオコが集積するのかも明らかとする。

## 2. 方法

アオコが発生しないと考えられる7月の第1週から10月の最終週まで、毎週1回ずつ宍道湖湖心から東西南北に測線を取り、湖心及び水深4、3、2、1mの合計17地点の表層で採水し分析を行う。なお、湖心では湖底上0.5mで採水を行う（無機態栄養塩のみ分析）。採水時にリンコプロファイラーによる水深10cm毎の水温・電気伝導度・溶存酸素濃度の測定を行い、同時に目視によるアオコレベルの観察も行う。

## 3. 期待される成果

- アオコ発生のきっかけ及び集積・拡散のプロセスの知見を得る。
  - ・アオコがいつどこで発生するのが明らかとなる。
  - ・発生したアオコがどのように沿岸部に集積して行くのが明らかとなる。
  - ・なぜアオコが沿岸部へ集積するのが明らかとなる（風のデータ解析、出雲河川事務所のアオコ確認状況援用）
  - ・アオコが沿岸部へ集積するその他の原因を解明できる可能性がある。